

磁器 早キよまんば!!

発行部数 868 部

第17号
2018年
9月

全国各地の災害に遭われた方に対して心よりお見舞い申し上げます。

当社も、7月3日の台風7号上陸により工場のスレートが何か所も吹き飛んだり、飛んだその破片で窓ガラスが割れたりの被害を受けました。そのあとの7月6日の豪雨では、会社のすぐそばを流れる塩田川の水位が上昇し、あわや氾濫というところでした。

当社の場合はこの程度で済み、被害は少なく人のけがなども無かったので幸いでした。各被災地と比べれば恵まれた状況です。おかげで現在も無事に生産が来ています。

▶ 7月6日18時過ぎ。
ピークを過ぎてこの水位。
堤防ギリギリでした。



◎ 実際の塩田川の様子を
YouTube にUP しています

瀏野陶磁器原料 動画 塩田川



作品展におじゃましてきました

今年は出かける機会を少しずつ増やしています。東京出張とちょうど日程が重なったので室伏さま・佐藤さまの作品展に、そしてその同じ日に開催中と知った富川さまの個展に、その後福岡で副島さまの作品展に顔を出させていただきました。

普段なかなかお客さまと直接お会いする機会が無いので、どこも長居してしまいました。申し訳なかったですが、興味深いお話をたくさん聞かせてもらうことが出来て、すごく貴重な時間になりました。ありがとうございました。

機会を作ってみなさまのところへもお邪魔させていただきたいと思っています。是非当社へも作品展・個展の案内をお送りください！

瀏野直幸



◀ 室伏英二さま(右)と
佐藤美佳さま(左)と



◀ 静風舎 副島泰嗣さまと



◀ 富川秋子さんの作品展
― 氷と線 ―

今年の3月、長男が高校を卒業し、4月には長崎大学に入学しました。工学部工学科化学・物質工学コースで学んでいますので、後継ぎとしてセラミックスの基礎知識をしっかりと身につけてもらいたいです。



■ 社長のブログ ■

陶芸の悩み解決
完成歩留り向上コンサルタント
瀏野直幸に聞け！

URL: <http://www.fromform.jp/blog/>

少しずつ
かき始めました
ご覧ください！



Youtubeをチェック！

Youtube 瀏野陶磁器原料



新規動画更新しています！

ぜひチャンネル登録お願いします！



● 問題 ●

○ 裏、表の紙面すべてにウサギは何匹いるでしょう？
答えは裏面のじゃりんこミモのコーナーの下です。

2012年、西アフリカ・マリ共和国。アルカイダ系組織が制圧した町トンブクトウ。ここから歴史的価値が非常に高い37万冊もの古文書を救い出した図書館員たちのノンフィクションです。

急激に侵攻してきた武装勢力に占拠された町。その中で古文書運び出す手はず、そして実際の輸送。遭遇する組織の見張りや検問。多くの障害を乗り越えながら、安全な首都まで様々な手段で運ぶスリリングな様。反政府勢力が首都まで迫る勢いで、あわやマリ一國が支配され



アルカイダから古文書を守った図書館員
ジョシュア・ハマー
著

おすすめの一冊
アルカイダから古文書を守った図書館員
ジョシュア・ハマー (著)

そうになった状況から、フランス軍の介入により瞬く間に武装組織を掃討していく詳細な様子。

中でも最も驚いたのはトンブクトウというその町。サハラ砂漠の中、十六世紀にはすでにサンコレ大学を中心に180もの教育機関が存在し、

学問が隆盛を極めていたこと。当時の人口およそ10万人。そのうちの4分の1近くが各地から訪れた学者や学生だったそうです。

瀏野直幸



じゃりんこミホの
見ている風景



東北3大祭りの1つ「秋田竿燈まつり」に行ってきました！…というのは嘘で、実はここ佐賀県武雄市なんです！

それより、「なんで武雄
で秋田竿燈？」と思ひませ

歴史は、約 150 年前の戊辰戦争に遡ります。明治新政府側の秋田藩は、旧幕府側の東北諸藩から落城寸前まで追い詰められていました。しかし、佐賀藩武雄隊などが援軍として奮戦し、秋田を救ったそうです。

そして、時は経ち1986年。秋田市で佐賀藩士の墓が見つかったことをきっかけに、秋田と武雄の交流が始まりました。

今年は明治維新 150 周年。それを記念して秋田竿燈まつりを武雄に誘致することに至ったようです。

お祭り当日の5月12日。会場
についての瞬間、目を疑いま
した。普段は人通りが少なく静か
な温泉通りが押しつぶされそう
なほどの人でいっぱいになり、
「どっこいしょ どっこいしょ！」
と大人も子どもも声を上げてい



▲ 武雄温泉 楼門前での演技
(インスタグラムより引用)

て、ここはどこだ?!とってしまいました(笑)

初めて見る竿燈は遠くからでも見えるくらい大きくて迫力満点でした！それもそのはず、竿燈 1 本には 46 個もの提灯がついていて、大きさはなんと高さ 12 メートル・重さ 50 キロ！それを手のひらや肩、額、腰に乗せてうまくバランスをとる妙技は芸術でした！

この日は竿燈の種類の中でも1番大きいものが5本も用意されていて、迫力に圧倒されましたが、本場の秋田竿燈まつりでは約280本もの竿燈が800メートルの通りを埋め尽くすそうです。



次は秋田の竿燈まつりに行こう
と思わざるを得ない瞬間でした。



▲ 秋田イケメン発見！
こちらは差し手のお兄さん
デレデレの私を撮影したの
は、旦那さまです（笑）

吉村美穂 

～問題の答え～ 正確は9匹でした！ 義はタートルに4匹、右王右下に2匹、YouTube のお知らせに1匹。裏面は昔話のタートル下に1匹、じやいんこミホのタートル左下に1匹！ みなさん全部見つけられましたか？

■ 編集後記

会長さんの昔ばなしの玉石を出し入れする作業を月1でしていたところ、想像しただけでゾッとしました。 吉村

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要ない方は、たいへんお手数ですがその旨を下記までご連絡ください。

有限会社 渕野陶磁器原料
〒849-1426

佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙287-1

T E L 0954-66-4207

F A X 0954-66-3747

E-mail: info@fromform.jp

H P <http://www.fromform.jp>



会長さんの昔話

第
17
話



昭和44年、共立製磁（現在は共立エレクトクス）さんからの依頼でポールミル2基を導入し、電子部品用のアルミナ磁器坏土を作り始めました。

それまではスタンパー（キネとウス）でしか粘土を作ったことはなく、共立製磁さんにポールミルの使い方を教えてもらい、最初は手探り状態で取り組んでいきました。

最初の頃は機械を置いた

だけの状態でした。ポールミルの高さは2.3m。機械の真上が原料を入れる場所です。はしごを掛け、ポールミルに上ったところが投入口。入れる原料の総量は500キロ。原料を担ぎ何度も何度も昇り降りして入れていました。

その後、ポールミルの上部すれすれに床を張り、作業できる場所を作りました。同時に電動ホイストを取り付け、はしごを使わずに床の上まで原料を上げることが出来るようになった。

りました。
当時うちにはフォークリフトが無かったので、その時々で出来る工夫をしながら生産を行っていました。

ボールミルの中には玉石と呼んでいる丸い珪石が入っています。ボールミルの運転時には、この玉石が転がることで原料を攪り潰す仕組みになっています。このとき玉石も少しずつ擦り減っていきます。擦り減った玉石は粘土の方に微量の珪石分として加わります。

この摩擦により粘土に

混じっていく珪石の量を知るため、共立製磁さんの指示でひと月に1回ボールミルの中の玉石を全部出して計量していました。

この作業がすごく大変で、普段中に入れる原料は500キロなのですが、玉石は1000キロ近く入っています。これを手作業で出して、量って、また入れるという骨の折れることをやっていました。

こうやって普段の生産や確認作業を通じ、機械の使い方、我々なりの生産性向上の方法などを身に付けていくことが出来ました。

この時期、ボールミルの使用方は覚えたのですが、原料や調合についての知識は全くありません。それはこのあと覚えていくことになります。



▲ 手前2台が昭和44年に
据え付けたボールミル

泷野義則